

SRD-P401の抗侵害作用

飯塚晃¹⁾、園田真麻¹⁾、豊永真弥²⁾、小松靖弘³⁾

1) 日本薬科大学臨床薬学教育センター

2) とよなが動物病院、

3) 北里大学、北里生命科学研究所 和漢薬学研究教室

実験目的

慢性炎症性疾患の治療には一般的にNSAIDs(非ステロイド性消炎鎮痛剤)が用いられている。しかし、薬剤の副作用の観点から長期運用することができず、特に変形性関節症等の治療に苦慮するところである。SRD-P401((有)サン自然薬研究所、東京)は鎮痛、抗炎症作用を有する健康補助食品として開発された。臨床的には、避妊と去勢手術後の鎮痛や抗炎症作用が確認されているが、基礎的な研究は行われていなかった。

そこで今回マウスを用いて、炎症性の疼痛に対する作用と急性毒性試験を行ったので報告する

実験方法 1

SRD-P401の急性毒性試験

5週令の雄性ddyマウス(日本SLC)を用いた。18時間絶食後に、SRD-P401の錠剤を粉末にし、精製水で懸濁したものを漢方薬の急性毒性用量と同量の8g/kgを胃ゾンデを用いて経口投与した。投与後1週間における行動と生死を検討した。

実験結果

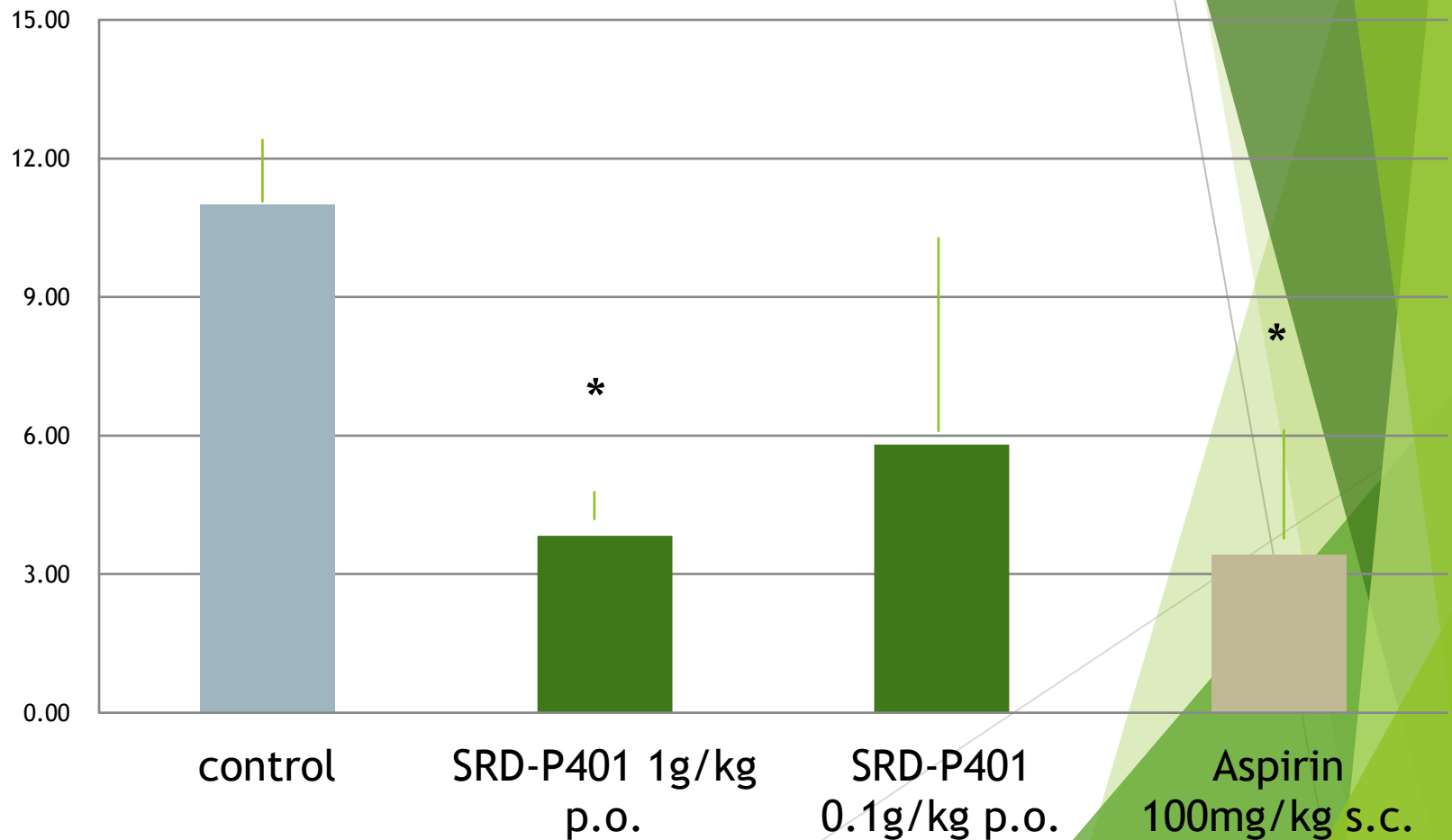
SRD-P401の急性毒性試験

- ▶ SRD-P401の8g/kgを投与して1週間後も死亡例は認められなかった。
- ▶ また、一般活動にも全く影響はなかった

実験結果

抗侵害作用

Antinociceptive Effects of SRD-P401



結論

今回、マウスを用いた研究から、SRD-P401の鎮痛消炎効果はアスピリンと同等の効果があることが明らかになり、その有効性と安全性が実験的に明らかにされたことは臨床において応用していく上で、極めて重要な知見と言え、今後の治療に根拠を与えるものである。